

重心動揺検査 (体のバランスをみる検査)

検査時間
5分

写真1 重心動揺検査

○目的および方法

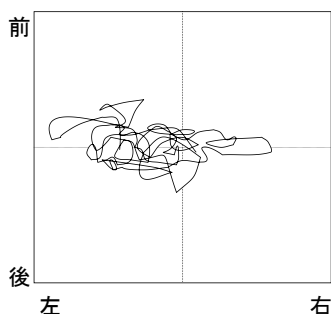
めまいがしていたり体がフラフラしている時、「歩くとどちらかに寄っていく」「まっすぐに立ってられない」など、体のバランスに乱れが起きている事があります。重心動揺検査は、このバランスの乱れを数値で正確に判断する検査です。まっすぐ立っている時の体の揺れを、目を開けている時と目を閉じている時の両方を記録・分析していきます。(写真1)



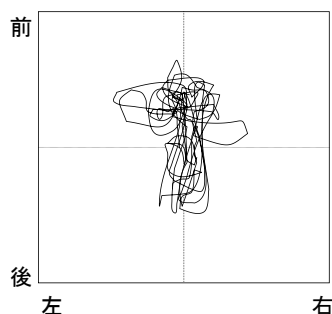
- (1) 体の揺れの大きさからバランスの乱れの程度を把握し、病気の経過観察や、治療効果の評価などに役立ちます。
- (2) 体の揺れのパターンからどこが悪くてめまいが起きているのか診断するのに役立ちます。図1に実際の揺れのパターンの例を示します。立っている時の体の揺れを線で表しています。
- (3) 目を開けて立っている時と、目を閉じて立っている時の体の揺れの程度を比べます。目を閉じて立つと体の揺れが大きくなるかどうかまた、目を開けて周りを見ることで体の揺れを抑えることができるかどうかわかります。

図1 重心動揺検査の例

左右に体が揺れるパターン
片方の内耳の障害で見られることが多い



体が前後に揺れるパターン
両方の内耳の障害、小脳の障害、脳幹の障害などで見られることが多い



体がいろんな方向に大きく揺れるパターン
広い範囲の小脳障害で見られることが多い

